

令和元年

消防統計

火災統計

救急統計

救助統計

大崎地域広域行政事務組合
消防本部

第1章 火災統計

1 大崎管内における火災概要

火災件数

令和元年における総火災件数は51件で前年より19件減少し、約7.2日に1件の割合で発生したことになります。

また、市町別の火災件数は、大崎市31件(60.8%)、色麻町5件(9.8%)、加美町5件(9.8%)、涌谷町7件(13.7%)、美里町3件(5.9%)となっています。(表1・表2)

過去10年間の火災件数を比較すると、最少の件数となります。(図1)

表1 市町別火災件数

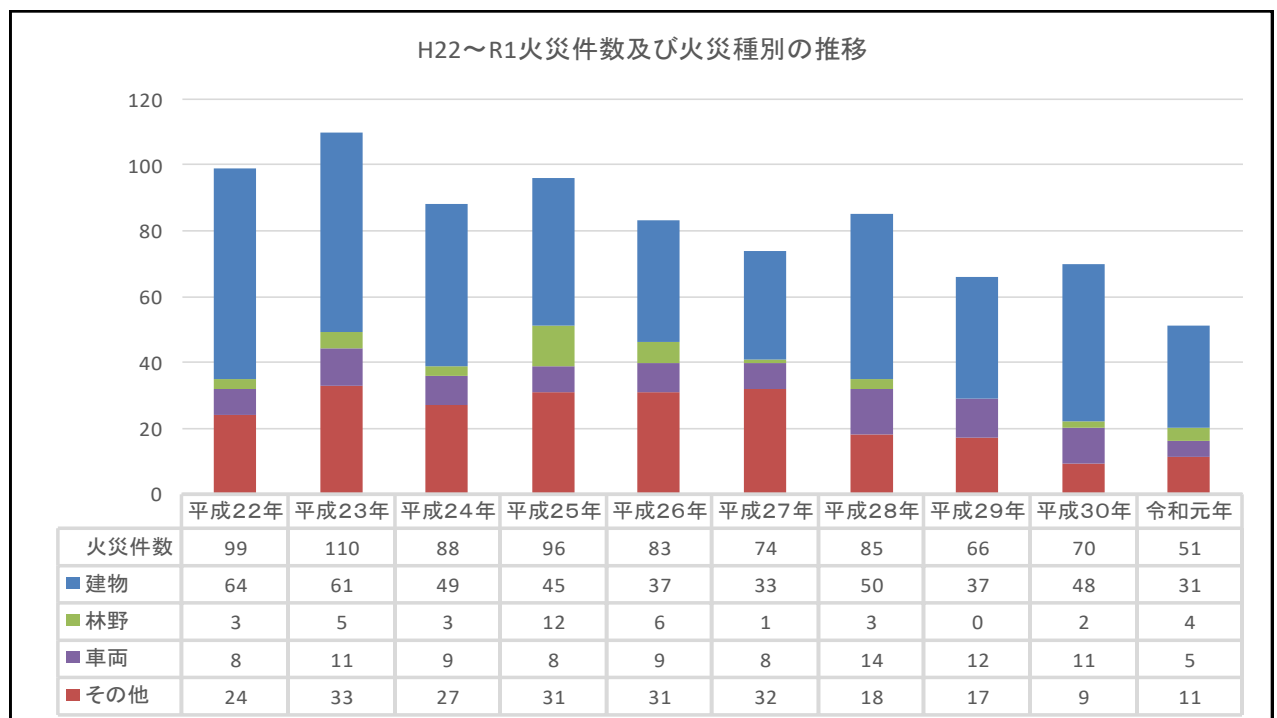
	大崎市	色麻町	加美町	涌谷町	美里町	合計
令和元年	31	5	5	7	3	51
平成30年	43	4	11	8	4	70
比較	-12	1	-6	-1	-1	-19

表2 市町別火災総括表

	火災件数					焼損棟数	り災		死者	負傷者	世帯数	人口
	合計	建物	林野	車両	その他		世帯	人員				
大崎市	31	17	3	5	6	38	26	59	2	5	51,593	129,444
色麻町	5	5	0	0	0	19	4	14	1	0	2,098	6,779
加美町	5	2	0	0	3	6	3	10	0	1	8,147	22,992
涌谷町	7	4	1	0	2	9	4	13	1	1	6,028	15,910
美里町	3	3	0	0	0	9	3	7	0	0	9,133	24,395
大崎圏全体	51	31	4	5	11	81	40	103	4	7	76,999	199,520

※世帯数・人口は令和元年12月末現在(宮城県住民基本台帳より)

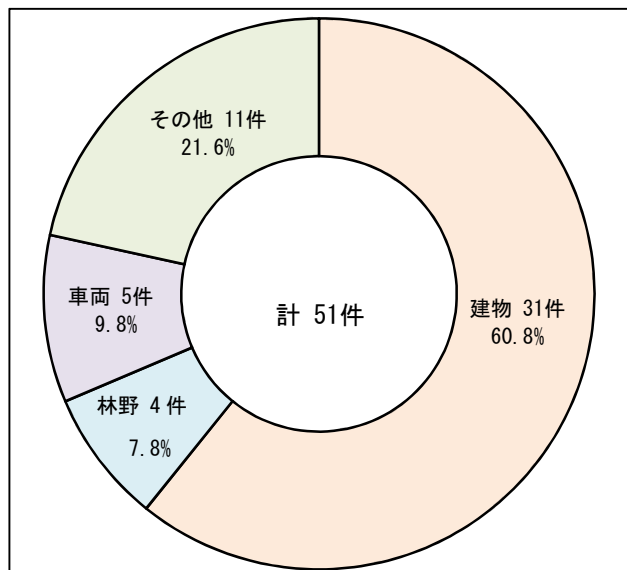
図1 過去10年の火災件数及び火災種別の推移



火災種別ごとの火災件数

火災種別ごとの火災件数は、建物火災が31件(60.8%)で前年より17件減少、林野火災が4件(7.8%)で2件増加、車両火災が5件(9.8%)で6件減少、その他火災が11件(21.6%)で2件増加となっています。(図2)

図2 火災発生状況

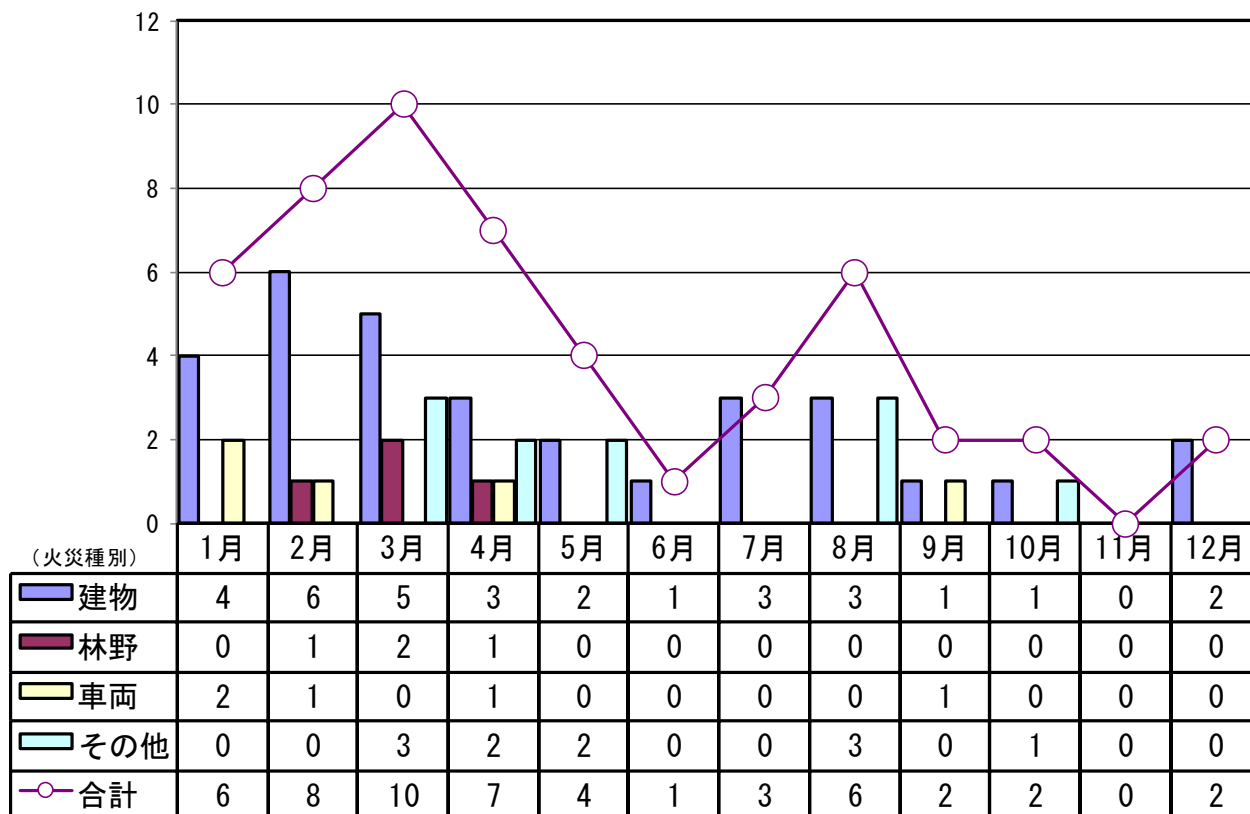


全 焼	34 棟
半 焼	8 棟
部分焼	24 棟
ぼ や	15 棟
合 計	81 棟

月別の火災件数

月別の火災件数は、3月に10件の火災が発生し全体の19.6%を占め、うち建物火災が5件発生しました。また、11月中の火災件数は0件でした。(図3)

図3 月別火災発生状況

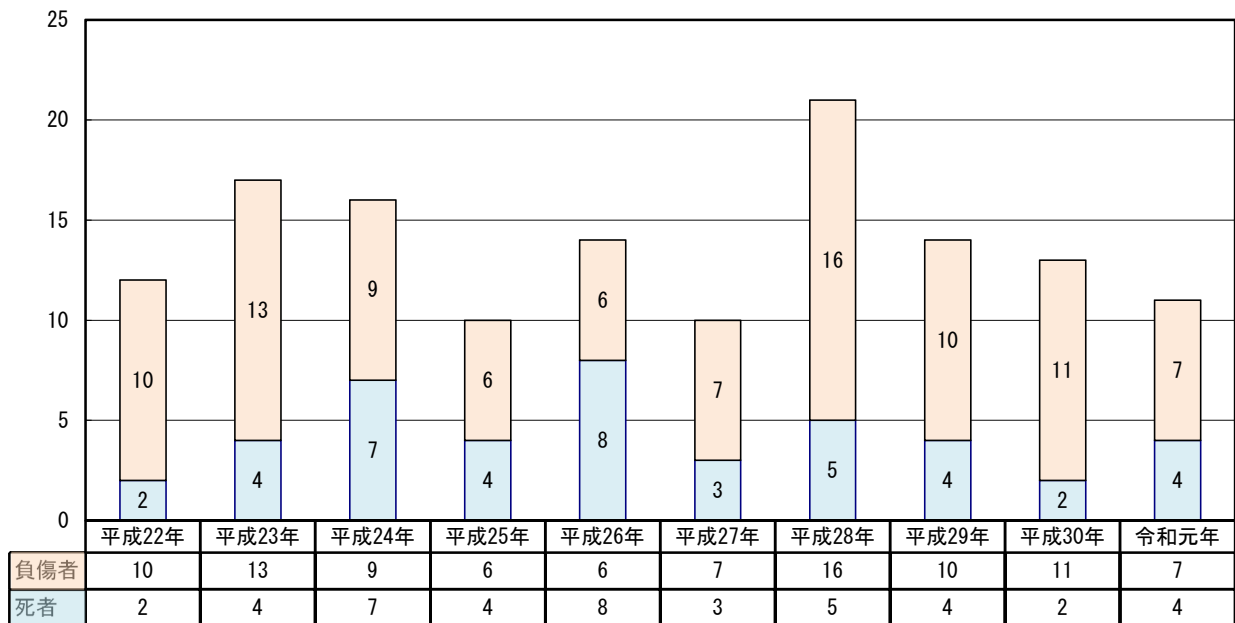


2 死傷者等の発生状況

火災による死者数は4人で、前年より2人増加しています。死者が発生した火災の種別は、建物火災が3人、その他火災が1人となっています。

火災による負傷者数は7人で、前年より4人減少しています。負傷者が発生した火災の種別は、建物火災が4人、車両火災が1人、その他火災が2人となっています。(図4)

図4 過去10年間の火災による死傷者状況



3 損害額・出火率

損害額

令和元年における火災による損害額は1億2,986万7千円で、前年と比較すると、2億2,143万3千円減少しました。

火災種別ごとの損害額は、建物火災が1億1,996万7千円、林野火災が56万7千円、車両火災が334万1千円、その他火災が599万2千円となっています。

火災1件当たりの損害額は約254万6千円で、一世帯当たりの損害額は約1,687円、住民一人当たりでは約651円となっています。(表3・図5)

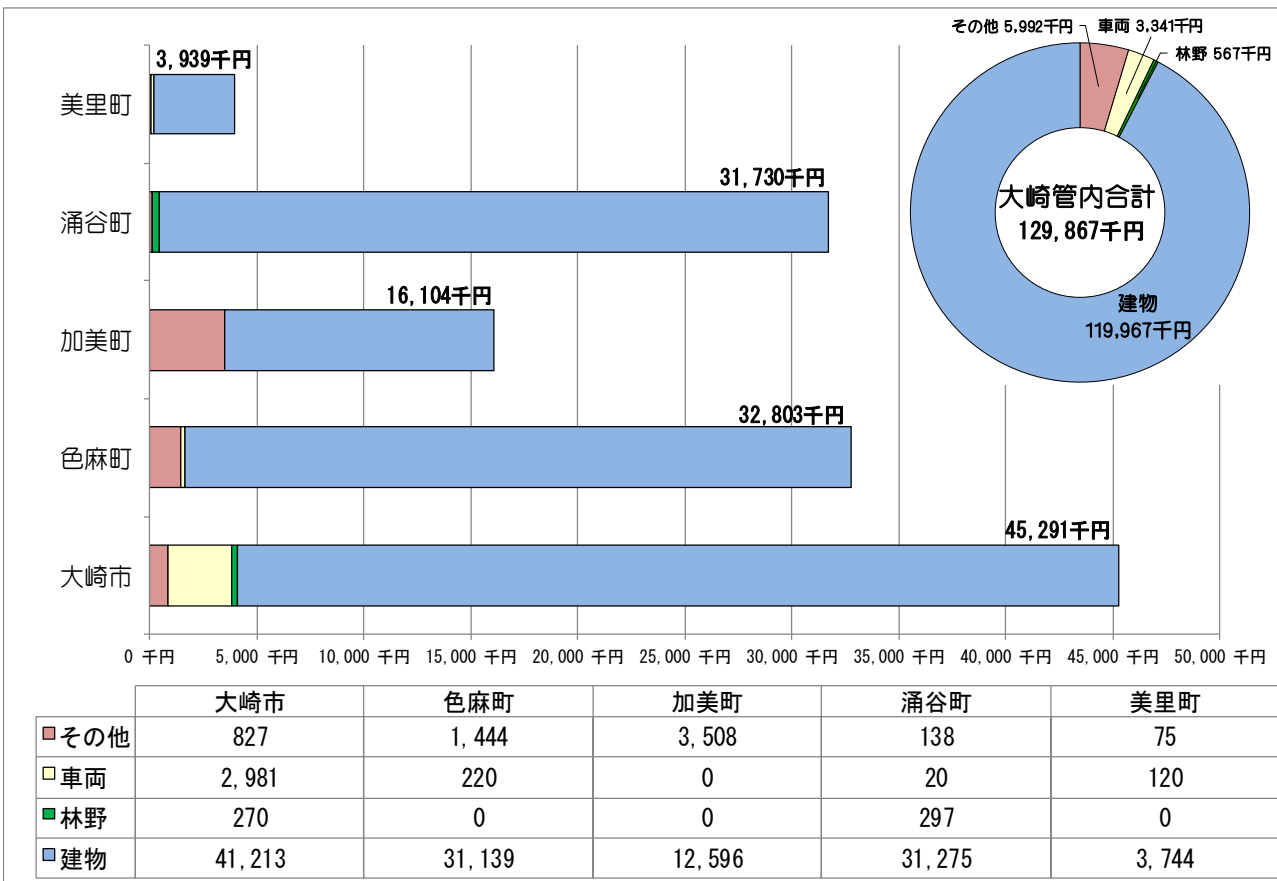
出火率

出火率をみると、大崎圏全体は2.56件/万人であり、前年と比較すると0.9件/万人減少しています。市町別にみると、色麻町が7.38件/万人と最も高く、次いで涌谷町が4.40件/万人、大崎市が2.39件/万人、加美町が2.17件/万人、美里町が1.23件/万人となっています。(表3)

表3 市町別出火率及び損害額

	一万人 当たり 出火率 (件/万人)	損 害 額				焼 損 面 積		
		総額 (千円)	1件 当たり (千円)	一世帯 当たり (円)	一人 当たり (円)	建物 面積 (㎡)	1件 当たり (㎡)	林野 面積 (a)
大崎市	2.39	45,291	1,461	878	350	1,906	112.1	378
色麻町	7.38	32,803	6,561	15,635	4,839	1,444	288.8	0
加美町	2.17	16,104	3,221	1,977	700	370	185.0	0
涌谷町	4.40	31,730	4,533	5,264	1,994	449	112.3	24
美里町	1.23	3,939	1,313	431	161	308	102.7	0
大崎管内	2.56	129,867	2,546	1,687	651	4,477	144.4	402

図5 市町別損害状況



4 出火原因

総火災件数の51件を出火原因別にみると、「たばこ」8件(15.7%)、「ストーブ」「配線器具」「焼却炉」「放火」各3件(5.9%)、「こんろ」「煙突・煙道」「電気機器」「火入れ」「放火の疑い」各2件(3.9%)の順となっています。(表4)

表4 出火原因

原因	年別	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年
たばこ		8	13	5	4	6	3	5	6	8	8
こんろ		7	4	3	3		2	6	3	4	2
ストーブ		6	10	2	3	3	6	6	1	7	3
こたつ				1							
煙突・煙道		3	1	3	2	1	2		1	2	2
排気管			2	2	2	2		4	4	5	1
電気機器		3	5	5	2	1	1	1	1	3	2
電灯等配線		4	2	5	1	3	7	3	4	2	1
配線器具		1	3	1	4	2		3	1	2	3
火遊び		3	1	1	2	3			2	1	1
たき火		7	5	5	12	4	4	1		3	1
溶接・切断機		2	3	2	2	1	1	1			
灯火			2	1	2	1	1	1	1	2	1
衝突の火花		1		1		1	1			1	
取灰				1			2		1	1	
火入れ		3	8	5	12	10	10	4	2	4	2
かまど								1			
風呂かまど		2	2	1	3	3	1				
炉				1							
焼却炉				1	2			1			3
ボイラー		2	1		1						1
電気装置			1	2	2	1					1
内燃機関									1	1	
マッチ・ライター		1	1				2	2	3		1
放火		1	2	4	4	5	6	11	6	1	3
放火の疑い		2	3	6	2	7	4	5	7	9	2
その他		22	18	19	16	15	10	10	14	9	7
不明		21	23	11	15	14	11	20	8	5	6
合計		99	110	88	96	83	74	85	66	70	51

第2章 救急統計

1 大崎管内における救急業務の実施状況

令和元年における救急出動件数は、9,470件（前年比182件増）で搬送人員が8,835人（前年比188人増）となりました。これは月平均で約789件、一日平均で約26件（約55分に1件）の割合で救急隊が出動し、管内の約23人に1人（約9世帯に1人）が救急隊により搬送されたこととなります。

（表1・図1）※大崎管内の世帯数及び人口：76,999世帯，199,520人（令和元年12月末現在，宮城県住民基本台帳より）

2 事故種別出動件数及び搬送人員状況

事故種別ごとの出動件数は、急病が6,116件（前年比360件増）と全出動件数の64.58%を占め、次いで転院搬送の1,440件（前年比39件減）、一般負傷の1,000件（前年比70件減）、交通の510件（前年比26件減）の順となりました。

搬送人員は、急病5,687人（前年比316人増）、転院搬送1,440人（前年比39人減）、一般負傷934人（前年比84人減）、交通548人（前年比10人減）の順となりました。（表1・図1）

過去10年間の救急出動件数は、平成22年から増加傾向にあり、平成23年から9年連続9,000件を超え、引き続き高い出動件数となりました。（図2）

表1 令和元年救急出動状況

区分	年別比較	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他			
													転院搬送	医師搬送	資器材搬送	その他
出動件数	令和元年	9,470	42	4	4	510	97	53	1,000	22	68	6,116	1,440	0	21	93
	平成30年	9,288	61	0	4	536	70	62	1,070	27	78	5,756	1,479	0	27	118
	比較	182	-19	4	0	-26	27	-9	-70	-5	-10	360	-39	0	-6	-25
不搬送件数	令和元年	734	35	0	4	48	0	1	67	6	23	435	2	0	21	92
	平成30年	731	55	0	3	49	1	1	62	8	24	388	1	0	25	114
	比較	3	-20	0	1	-1	-1	0	5	-2	-1	47	1	0	-4	-22
搬送人員	令和元年	8,835	7	4	0	548	97	54	934	18	45	5,687	1,440			1
	平成30年	8,647	9	0	1	558	69	63	1,018	21	53	5,371	1,479			5
	比較	188	-2	4	-1	-10	28	-9	-84	-3	-8	316	-39			-4

図1 救急出動状況

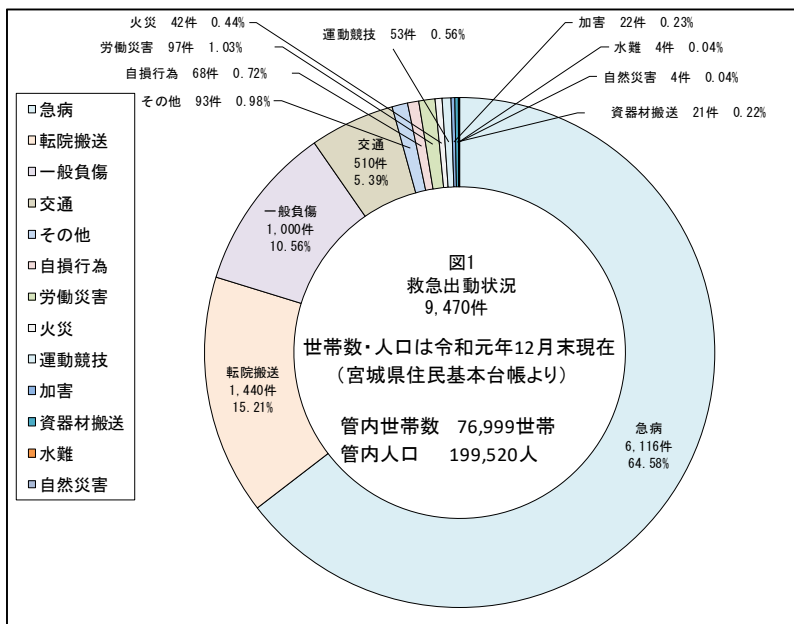
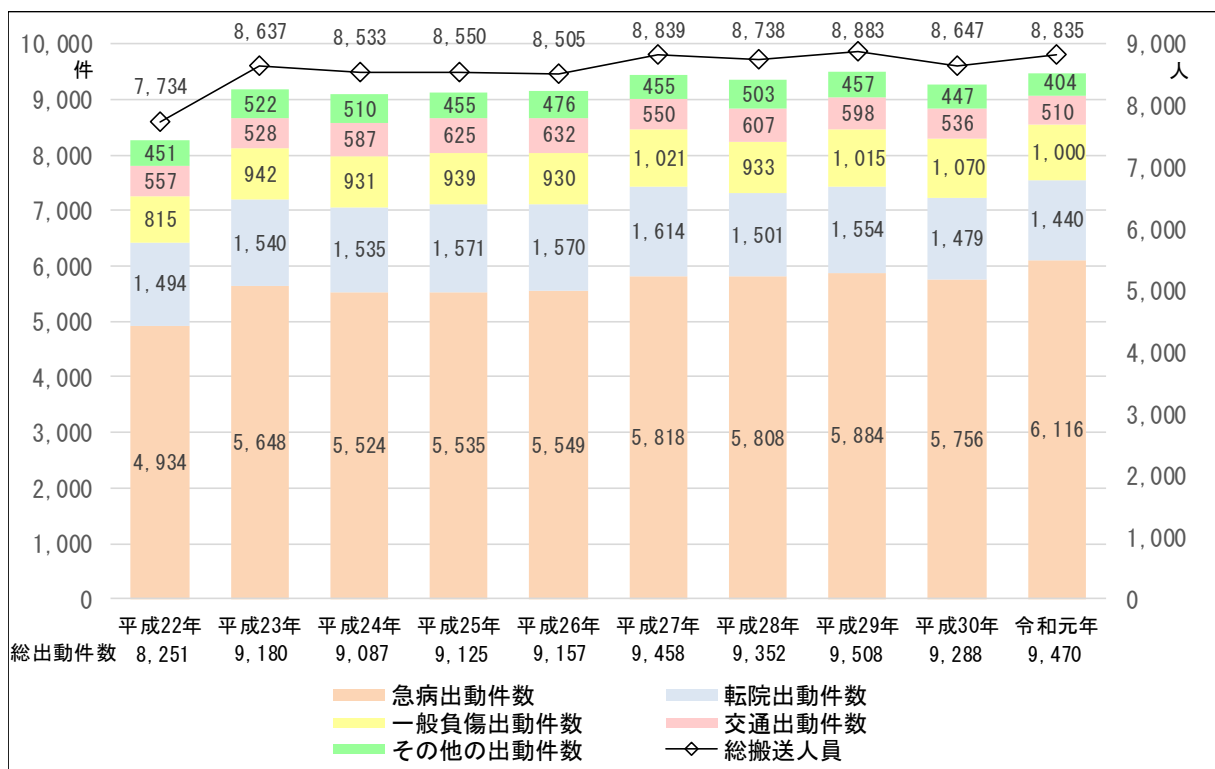


図2 過去10年間の救急出動件数の推移



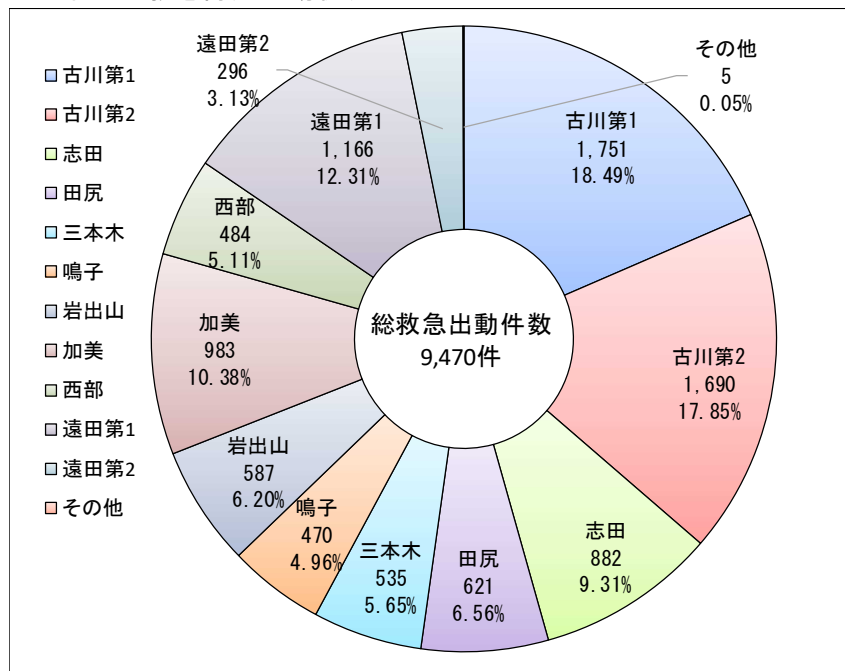
3 救急隊別出動状況

救急隊別の出動状況を前年比で見ると、合計で182件増加していますが、鳴子・岩出山・西部・遠田第1・その他（非常用救急車等）において出動件数は昨年より減少となりました。（表2・図3）

表2 救急隊別出動状況

	古川第1	古川第2	志田	田尻	三本木	鳴子	岩出山	加美	西部	遠田第1	遠田第2	その他	合計
令和元年	1,751	1,690	882	621	535	470	587	983	484	1,166	296	5	9,470
平成30年	1,725	1,560	870	594	516	472	601	961	489	1,217	277	6	9,288
比較	26	130	12	27	19	-2	-14	22	-5	-51	19	-1	182

図3 救急隊別出動状況

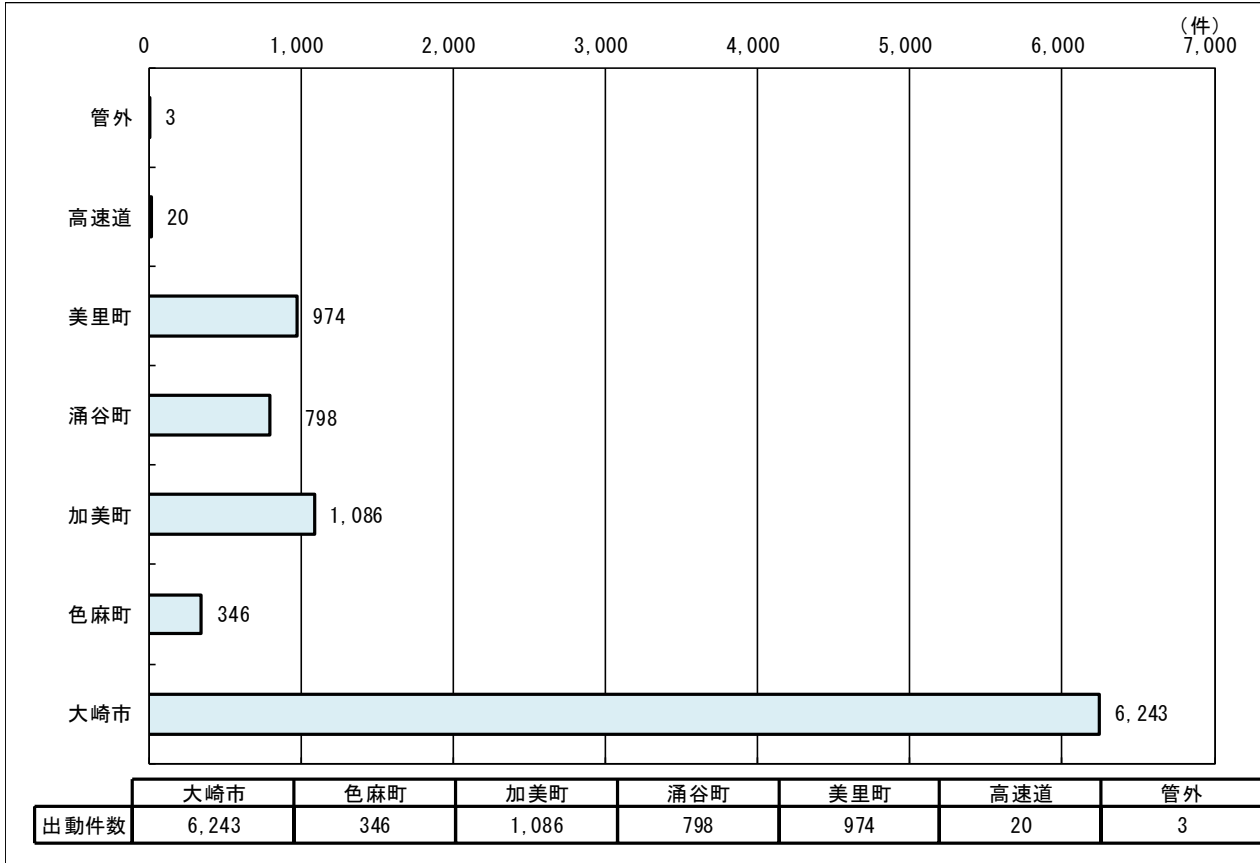


4 市町別出動状況

令和元年における総救急出動件数 9,470 件のうち、大崎管内への総出動件数は、9,447 件となりました。市・町別にみると、大崎市 6,243 件、色麻町 346 件、加美町 1,086 件、涌谷町 798 件、美里町 974 件となりました。

また、高速道（東北自動車道）に 20 件、管外への出動は 3 件でした。（図 4）

図 4 市町別救急出動件数



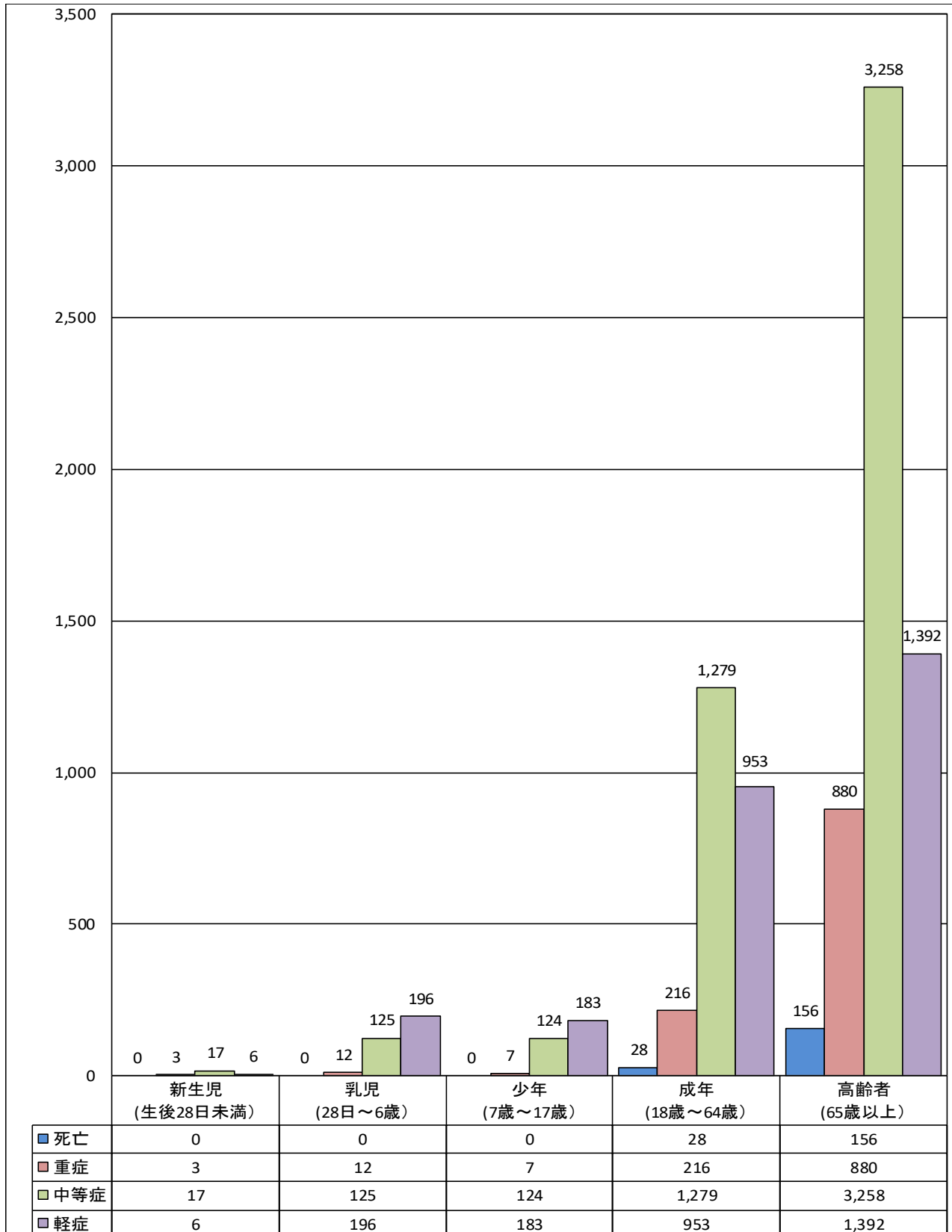
5 傷病程度別、年齢別搬送人員状況

搬送した8,835人の傷病程度は、死亡184人、重症1,118人、中等症4,803人、軽症2,730人と診断されました。

死亡、重症、中等症の傷病者の割合は全体の約69.1%、入院加療を必要としない軽症の傷病者の割合は30.9%となりました。

また、年齢別では高齢者（65歳以上）が全体の約64.4%を占めました。（図5）

図5 傷病程度別・年齢別搬送人員状況



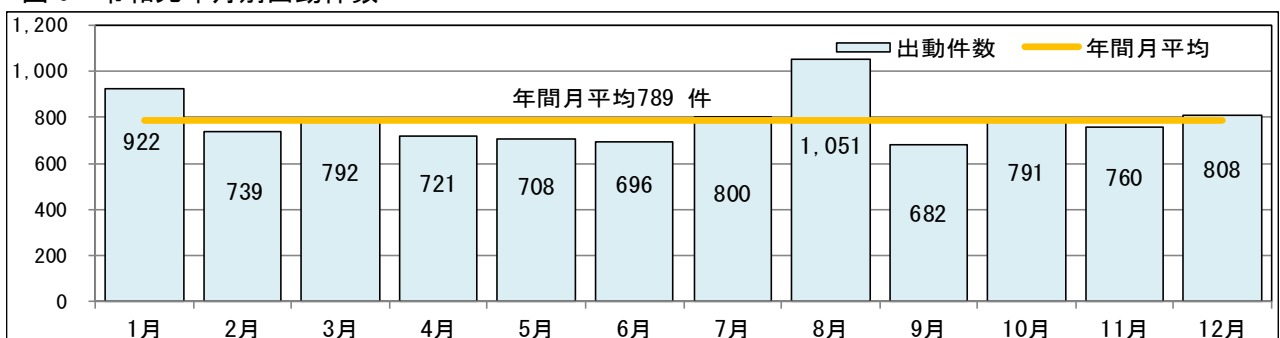
6 月別救急出動状況

救急隊の1か月の平均出動件数は約789件で、最も多い月は8月で1,051件、次いで1月の922件となりました。(表3・図6)

表3 令和元年月別及び事故種別毎出動・搬送等状況

月別	区分	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他			
													転院搬送	医師搬送	資器材搬送	その他
1月	出動件数	922	6			39	9	2	113	2	2	595	146		1	7
	搬送件数	858	4			32	9	2	104	2	1	558	146			
	搬送人員	867	4			41	9	2	104	2	1	558	146			
2月	出動件数	739	9			32	3	4	82	2	3	477	121			6
	搬送件数	680	1			27	3	4	79	2	2	441	120			1
	搬送人員	685	1			31	3	4	80	2	2	441	120			1
3月	出動件数	792	10		1	46	4	1	66		7	523	127		1	6
	搬送件数	724	2			40	4	1	62		3	486	126			
	搬送人員	730	2			45	4	1	63		3	486	126			
4月	出動件数	721	3			50	4	3	70	6	6	475	99		2	3
	搬送件数	670				44	4	3	63	5	3	449	99			
	搬送人員	678				49	4	4	63	6	3	450	99			
5月	出動件数	708	1		1	37	5	5	67	1	9	456	113		2	11
	搬送件数	654				36	5	5	62	1	8	424	113			
	搬送人員	659				41	5	5	62	1	8	424	113			
6月	出動件数	696	1	2		39	2	7	83	1	7	455	93		1	5
	搬送件数	646		2		35	2	7	78		7	422	93			
	搬送人員	650		2		39	2	7	78		7	422	93			
7月	出動件数	800	4			36	11	6	74	1	4	526	126		2	10
	搬送件数	739				35	11	6	71		2	488	126			
	搬送人員	747				41	11	6	72		2	488	127			
8月	出動件数	1,051	3			64	17	10	100	2	7	712	123		4	9
	搬送件数	962				62	17	10	93	1	4	652	123			
	搬送人員	973				73	17	10	93	1	4	652	123			
9月	出動件数	682	1		2	33	12	11	64	3	3	436	111		2	4
	搬送件数	640				30	12	10	60	3		414	111			
	搬送人員	652				39	12	11	60	4		414	112			
10月	出動件数	791	1	2		41	11	3	105	2	6	484	122		3	11
	搬送件数	728		2		35	11	3	99	1	4	451	122			
	搬送人員	741		2		46	11	3	99	1	4	453	122			
11月	出動件数	760				48	12		82		4	486	120		1	7
	搬送件数	704				45	12		78		3	446	120			
	搬送人員	714				54	12		77		3	448	120			
12月	出動件数	808	3			45	7	1	94	2	10	491	139		2	14
	搬送件数	731				41	7	1	84	1	8	450	139			
	搬送人員	739				49	7	1	83	1	8	451	139			
合計	出動件数	9,470	42	4	4	510	97	53	1,000	22	68	6,116	1,440	0	21	93
	搬送件数	8,736	7	4	0	462	97	52	933	16	45	5,681	1,438	0	0	1
	搬送人員	8,835	7	4	0	548	97	54	934	18	45	5,687	1,440	0	0	1

図6 令和元年月別出動件数



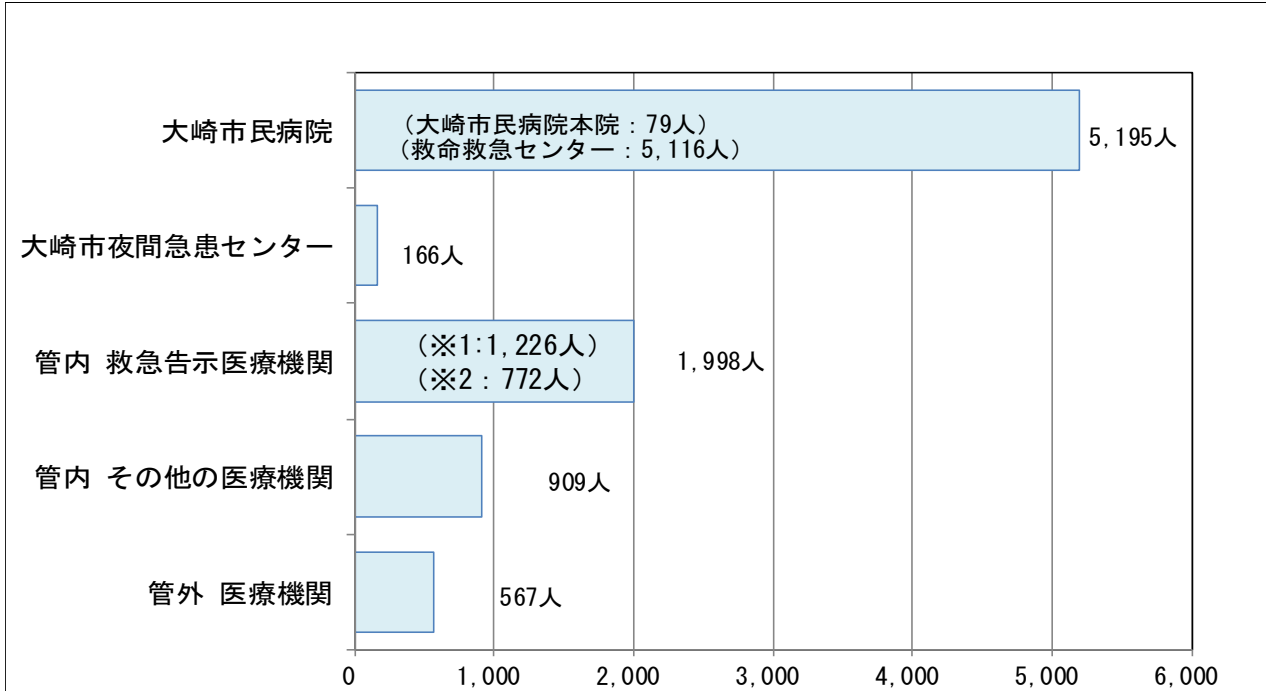
7 収容先別搬送人員状況

令和元年における収容先別搬送人員状況は、大崎市民病院（救命救急センター含む）が最も多い5,195人で、その割合は全搬送人員の58.8%となりました。

また、大崎市夜間急患センターへ搬送された人員は166人でした。

大崎市民病院を除く大崎管内の救急告示医療機関に搬送された人員は1,998人で、そのうち公立の救急告示医療機関に搬送された人員は1,226人でした。（図7）

図7 収容先別搬送人員状況



※1 公立救急告示医療機関：大崎市民病院鳴子温泉分院，大崎市民病院岩出山分院，大崎市民病院鹿島台分院，

涌谷町国民健康保険病院，美里町立南郷病院，公立加美病院

※2 その他の救急告示医療機関：古川民主病院，古川星陵病院，徳永整形外科病院，みやぎ北部循環器科，東泉堂病院

※3 救急告示医療機関：「救急病院等を定める省令」（昭和39年厚生省令第8号）第1条による医療機関，令和元年12月20日現在

8 ドクターヘリ要請件数状況

令和元年における大崎消防本部のドクターヘリ要請件数は36件で、救急隊と連携し現場活動を実施したのは21件となり、15件は救急隊の現場判断等によりキャンセルとなりました。（表4）

表4 ドクターヘリ要請件数

出動先	大崎市							加美町			色麻町	美里町		涌谷町	合計
	古川	鹿島台	松山	田尻	三本木	鳴子	岩出山	中新田	小野田	宮崎		小牛田	南郷		
現場活動	0件	6件	0件	0件	0件	2件	2件	0件	3件	1件	0件	1件	1件	5件	21件
キャンセル	0件	5件	0件	1件	0件	1件	0件	0件	3件	1件	1件	1件	1件	1件	15件
件	17件							8件			1件	4件		6件	36件

9 救急隊員の行った救急処置状況

令和元年の搬送人員 8,835 人のうち、救急隊員が救急処置を行った傷病者は 8,835 人（搬送人員の 100%）であり、救急処置件数は 42,710 件となりました。（表 5）

表 5 救急隊員の行った救急処置件数

事故種別 傷病程度	応急処置 対象人員	止血	固定	人工呼吸	心マッサージ		心肺蘇生	うち自動	酸素吸入	気道確保				保温	被覆	在宅療法継続			SPO ₂ による 血圧保持	除細動	(C P A 前)	静脈路確保 (C P A 後)	薬剤投与	ブドウ糖投与	その他の 応急処置	血圧測定	聴診器による 聴取	血中酸素飽和度の 測定	血糖測定	心電図		計		
					心マッサージ	うち自動				※1	※2	※3	※4			※A	※B	※C												伝送				
急病	死亡	163		2			163	101	163	163		4	86		86		2		2		11		81	23		140	8	148	12		163		1,165	
	重症	705	3	6	15		86	45	361	175	4	3	49	1	298	1	12		12		10	20	57	30	2	687	633	426	636	46	656	84	4,160	
	中等症	2,979	15	57	4		1	1	479	56	2		1		1,006	11	46	2	9	35		38	1		21	2,953	2,905	1,193	2,971	79	2,521	190	14,357	
	軽症	1,840	56	28	1				59	8					577	6	14	1	1	12		11			9	1,826	1,730	606	1,830	19	1,263	55	8,043	
	計	5,687	74	93	20	0	0	250	147	1,062	402	6	7	136	1	1,967	18	74	3	10	61	0	21	69	139	53	32	5,606	5,276	2,373	5,449	144	4,603	329
交通事故	死亡	2	1	2			2	1	2	2		1			1								1			2		1			2		16	
	重症	28	8	26			2		14	6		2			14	7						3	2	1		27	26	22	26		26		210	
	中等症	219	28	172					15	3					79	45										206	216	140	218	1	132	1	1,255	
	軽症	299	14	171					1						68	27											286	290	139	298	2	100		1,396
	計	548	51	371	0	0	0	4	1	32	11	0	0	3	0	162	79	0	0	0	0	0	0	3	3	1	0	521	532	302	542	3	260	1
一般負傷	死亡	9					9	5	9	9		4	4	1	6	1							3	1		9	1	8	1		9		66	
	重症	58	8	27			4	4	11	9		2	3	1	20	5						3	3	1		57	53	20	54		39		314	
	中等症	480	63	154	1				22	3		1			167	60	3					2				477	471	120	480	1	224		2,248	
	軽症	387	71	89					5						89	90	4		1	3							377	354	103	381		137		1,700
計	934	142	270	1	0	0	13	9	47	21	0	7	7	2	282	156	7	0	1	6	0	0	5	6	2	0	920	879	251	916	1	409	0	4,328
その他	死亡	10		3			10	4	10	10		1	4		7								2	1		7	1	8	1		10		70	
	重症	327	4	20	6		8	7	139	23			4		153	6						2	5	2		318	311	84	318		238	15	1,637	
	中等症	1,125	22	68					270	7					453	23						2			1	1,100	1,095	265	1,124	2	749	53	5,181	
	軽症	204	14	23					15						68	15											198	193	43	204		119	9	892
計	1,666	40	114	6	0	0	18	11	434	40	0	1	8	0	681	44	0	0	0	0	0	2	2	7	3	1	1,623	1,600	400	1,647	2	1,116	77	7,780
合計	死亡	184	1	7	0	0	184	111	184	184	0	9	95	1	100	1	2	0	0	2	0	11	0	87	25	0	158	10	165	14	0	184	0	1,317
	重症	1,118	23	79	21	0	100	56	525	213	4	5	58	2	485	19	12	0	0	12	0	12	26	67	34	2	1,089	1,023	552	1,034	46	959	99	6,321
	中等症	4,803	128	451	5	0	1	1	786	69	2	1	1	0	1,705	139	49	2	9	38	0	0	42	1	0	22	4,736	4,687	1,718	4,793	83	3,626	244	23,041
	軽症	2,730	155	311	1	0	0	0	80	8	0	0	0	0	802	138	18	1	2	15	0	0	11	0	0	9	2,687	2,567	891	2,713	21	1,619	64	12,031
計	8,835	307	848	27	0	0	285	168	1,575	474	6	15	154	3	3,092	297	81	3	11	67	0	23	79	155	59	33	8,670	8,287	3,326	8,554	150	6,388	407	42,710

・気道確保

- ※1 経鼻エアウェイを使用しての気道確保
- ※2 喉頭鏡・マギール鉗子等による異物除去
- ※3 救急救命処置のうち、ラリングアルマスク等を使用
- ※4 気管挿管：気管チューブによる気道確保

・在宅療法

- ※A 在宅中心静脈栄養管理・在宅化学療法等により点滴処置が施されているもの
 - ※B 気道切開孔又は気管瘻、人工肛門等の外瘻処置が施されているもの
 - ※C ※A、※B以外の処置が施されているもの
- ・計欄については、止血から心電図までの集計である

10 PA連携出動状況

PA連携とは、消防ポンプ自動車（Pumper）が、救急要請内容により出動し、救急車（Ambulance）の活動を支援する連携活動のことで、双方の頭文字から「PA」と名前をつけたものです。

当消防本部では、平成18年2月1日から心肺機能停止傷病者等に、いち早く応急処置を行うため、直近のポンプ車が救急車より先に到着すると判断した場合、ポンプ車隊を出動させ、救急活動を支援する連携活動を行っています。（図8～10）

令和元年におけるPA連携出動件数は39件で、前年比16件の増加となりました。また、事故種別ごとの出動件数は、急病が34件と最も多く全出動件数の87.1%となりました。

図8 PA連携署所別ポンプ車出動状況

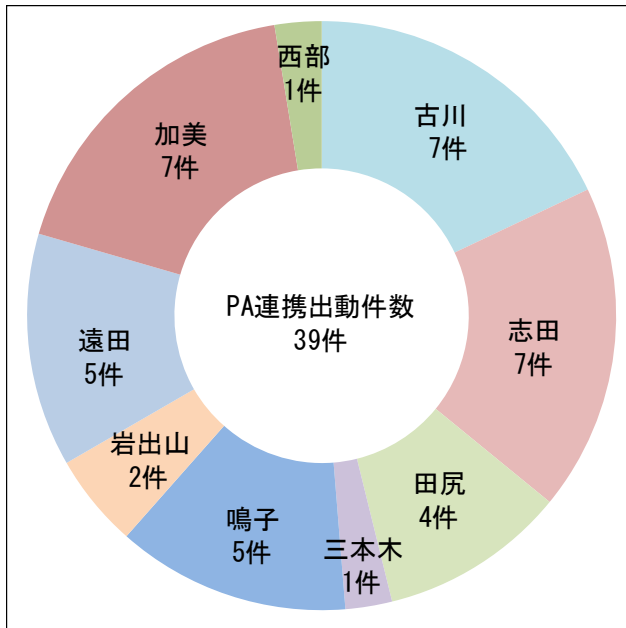


図9 PA連携事故種別毎出動状況

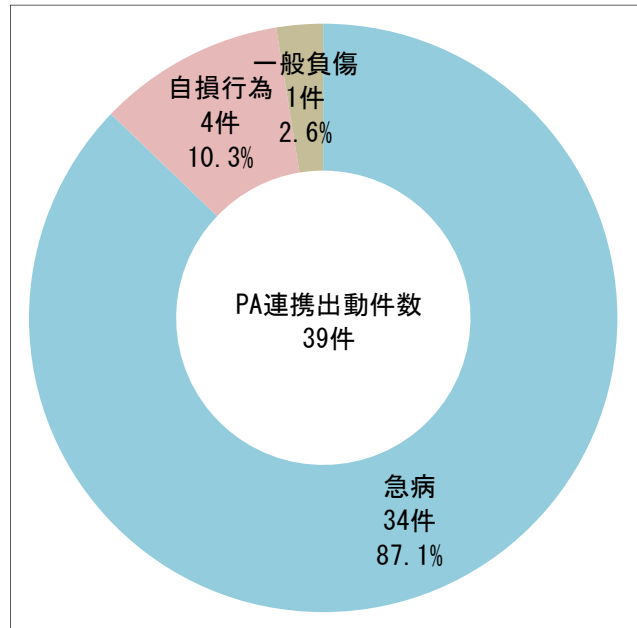
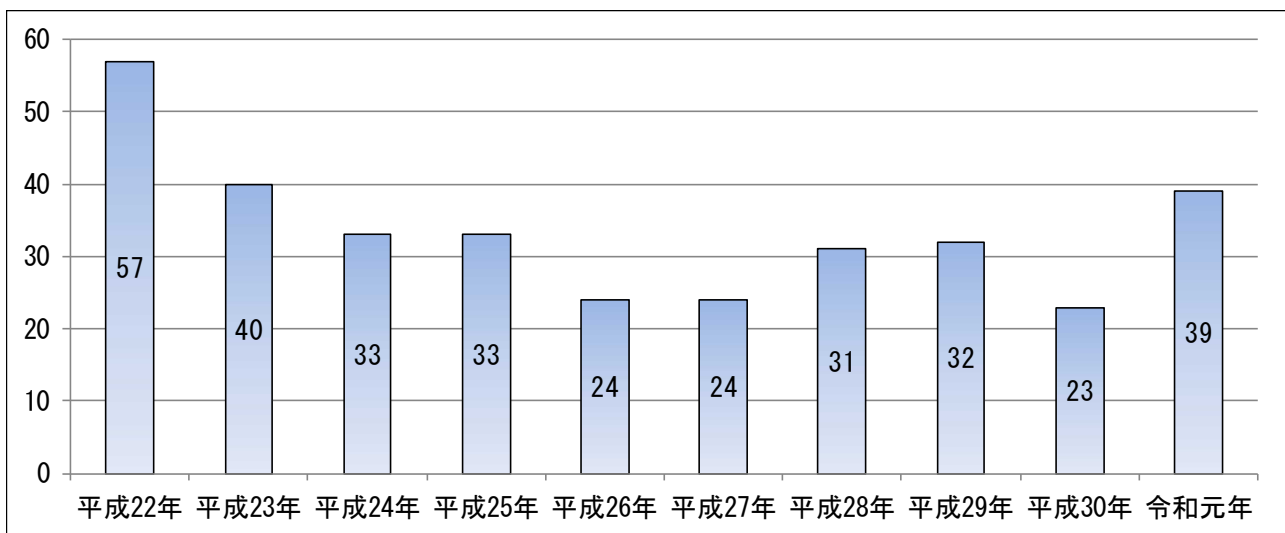


図10 過去10年間のPA連携出動件数



第3章 応急手当講習会等の概要

1 講習会の開催状況

令和元年における応急手当講習会等実施状況は、地域住民、学校、事業所等を対象として普通救命講習会（講習時間3時間）は149回2,951人、上級救命講習会（講習時間8時間）は5回108人、普及員講習会（講習時間24時間）は1回9人、平成24年から小学生（中高学年）を対象に開催している救命入門コースは40回954人が受講しました。

それぞれの救命講習会の受講者には「普通救命講習修了証」「上級救命講習修了証」「応急手当普及員認定証」「救命入門コース認定書」を交付しています。

また、簡単な応急手当を学べる「応急手当講習会」を175回開催し、3,648人が受講しました。

（表1）

表1 講習会別受講人員

種 別	開催回数	受講人員	内 容
普通救命講習会	149回	2,951人	心肺蘇生法（成人）・大出血時の止血等の講習（講習時間3時間）
上級救命講習会	5回	108人	心肺蘇生法（成人・小児・乳児）・大出血時の止血・傷病者管理・外傷手当・搬送法等の講習（講習時間8時間）
普及員講習会	1回	9人	事業所・地域団体等の従業員に対して、普通救命講習を指導できるための講習（講習時間24時間）
救命入門コース	40回	954人	対象者を小学生中高学年以上（概ね10歳以上）とし、カリキュラムは胸骨圧迫とAEDの使用法
応急手当講習会	175回	3,648人	病気・ケガ・事故等の時、医師の治療を受けるまでの簡単な応急手当の講習
合 計	370回	7,670人	

2 性別・年齢別受講者状況

受講者の年齢構成は、10歳代が最も多く、次いで40歳代、50歳代の順となっています。

性別構成は、男性と女性を比較すると普通救命講習会では男性が多く、その他については女性が多く受講し、全体で見ると男性の方が130人多く受講しています。(表2)

男女共に中高生の普通救命講習会の参加者が多い結果となりました。

表2 講習会別・性別・年齢別受講人員

種別	年齢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上	合計
	性別									
普通救命講習会	男	664	149	168	219	175	152	59	6	1,592
	女	547	132	128	150	144	181	70	7	1,359
	合計	1,211	281	296	369	319	333	129	13	2,951
上級救命講習会	男	12	4	0	5	4	2	1	0	28
	女	52	6	5	4	4	8	1	0	80
	合計	64	10	5	9	8	10	2	0	108
普及員講習会	男	0	1	2	0	1	0	0	0	4
	女	0	0	0	5	0	0	0	0	5
	合計	0	1	2	5	1	0	0	0	9
救命入門コース	男	283	29	26	35	51	20	8	0	452
	女	281	50	54	39	49	19	10	0	502
	合計	564	79	80	74	100	39	18	0	954
総合計		1,839	371	383	457	428	382	149	13	4,022

3 講習会開催の推移

平成9年から開催してきた各種救命講習会の総受講者数は、令和元年までの23年間で74,121人となりました。(表3)

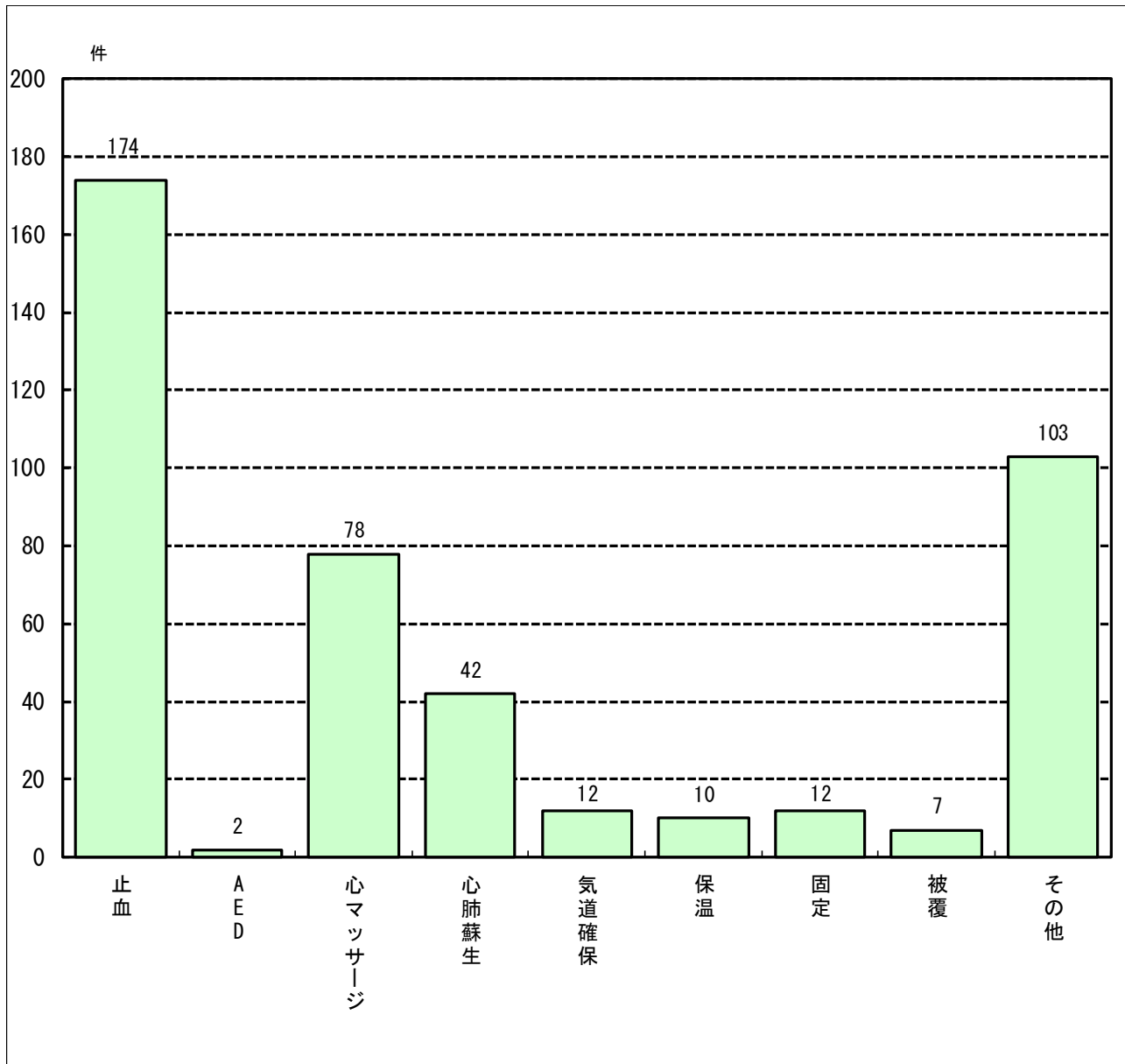
表3 講習会別開催回数・受講人員(平成9年～令和元年)

4 講習会の効果

種別	年別	回数	性別		合計
			男性	女性	
普通救命講習会	平成9年～平成20年	1,451	15,383	16,983	32,366
	平成21年	176	1,720	1,785	3,505
	平成22年	165	1,728	1,605	3,333
	平成23年	133	1,257	1,026	2,283
	平成24年	152	1,455	1,508	2,963
	平成25年	194	2,034	1,965	3,999
	平成26年	172	1,753	1,772	3,525
	平成27年	173	1,556	1,664	3,220
	平成28年	146	1,380	1,270	2,650
	平成29年	185	1,978	1,632	3,610
	平成30年	150	1,445	1,506	2,951
令和元年	149	1,592	1,359	2,951	
小計	3,246	33,281	34,075	67,356	
上級救命講習会	平成11年～平成20年	55	576	1,209	1,785
	平成21年	8	87	185	272
	平成22年	7	68	132	200
	平成23年	8	97	82	179
	平成24年	7	54	123	177
	平成25年	5	77	64	141
	平成26年	6	47	100	147
	平成27年	7	56	96	152
	平成28年	8	88	113	201
	平成29年	6	76	92	168
	平成30年	7	47	94	141
令和元年	5	28	80	108	
小計	129	1,301	2,370	3,671	
普及員講習会	平成12年～平成20年	11	120	188	308
	平成21年	1	9	8	17
	平成22年	2	7	16	23
	平成23年	1	3	3	6
	平成24年	3	8	10	18
	平成25年	1	3	3	6
	平成26年	1	3	6	9
	平成27年	2	17	2	19
	平成28年	1	5	2	7
	平成29年	1	6	2	8
	平成30年	2	2	11	13
令和元年	1	5	4	9	
小計	27	188	255	443	
救命入門コース	平成24年	1	64	71	135
	平成25年	3	52	66	118
	平成26年	8	120	143	263
	平成27年	6	125	113	238
	平成28年	9	147	170	317
	平成29年	11	206	177	383
	平成30年	9	125	118	243
	令和元年	40	452	502	954
小計	87	1,291	1,360	2,651	
合計	3,489	36,061	38,060	74,121	

これまで実施してきた応急手当講習会等の効果として、令和元年における救急出動のうち、救急隊が傷病者のもとへ到着するまでに家族や友人、さらには傷病者の近くにいた住民等による応急手当が440件実施されました。(図1)

図1 住民の行った応急処置件数



また、救急隊が搬送した291人の心肺機能停止傷病者に対して、住民により心肺蘇生又は心マッサージが実施された傷病者は120人(41.2%)で、そのうち救急隊が傷病者を医師に引き継いだ時点で10人(8.3%)の方が心拍又は呼吸が再開しました。

第4章 救助統計

1 救助業務の概況

令和元年における救助出動件数は43件で前年と比べ5件の減少、救助人員は32人で前年に比べ5人の減少となりました。これは、約8日に1件の割合で出動したことになります。地区別の出動件数は、大崎市28件、色麻町1件、加美町3件、涌谷町3件、美里町8件となっています。

(表1・表2)

また、事故種別ごとでは、交通事故が26件と出動件数全体の約60.5%を占め最も多く、続いて水難事故が5件と出動件数全体の約11.6%となっています。(図1-1・図1-2)

過去10年間の救助出動件数を比較すると、平成27年をピークに減少傾向となり、10年間で最も少ない件数となりました。(図2)

表1 地区別救助出動件数前年比較(単位:件)

地区 年	大崎市	色麻町	加美町	涌谷町	美里町	管外	高速道 (管内)	高速道 (管外)	合計
令和元年	28	1	3	3	8	0	0	0	43
平成30年	27	1	7	7	6	0	0	0	48
比較	1	0	-4	-4	2	0	0	0	-5

表2 地区別救助人員数前年比較(単位:人)

地区 年	大崎市	色麻町	加美町	涌谷町	美里町	管外	高速道 (管内)	高速道 (管外)	合計
令和元年	21	1	3	2	5	0	0	0	32
平成30年	18	1	5	8	5	0	0	0	37
比較	3	0	-2	-6	0	0	0	0	-5

図1-1 救助出動件数

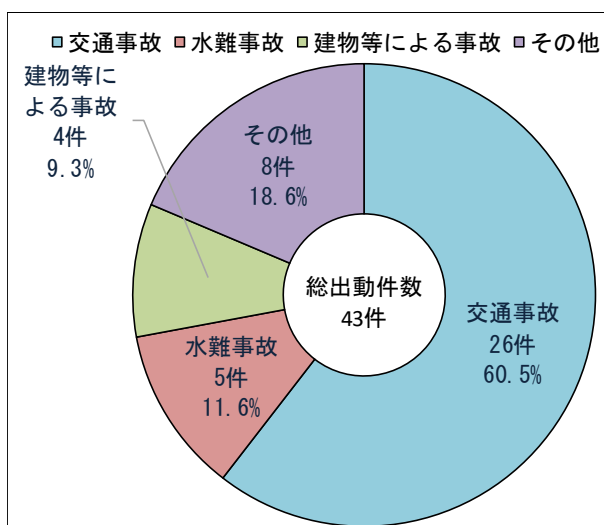


図1-2 救助人員数

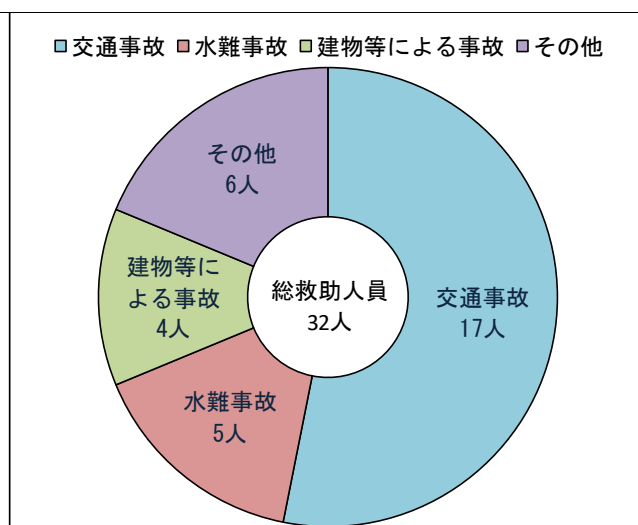
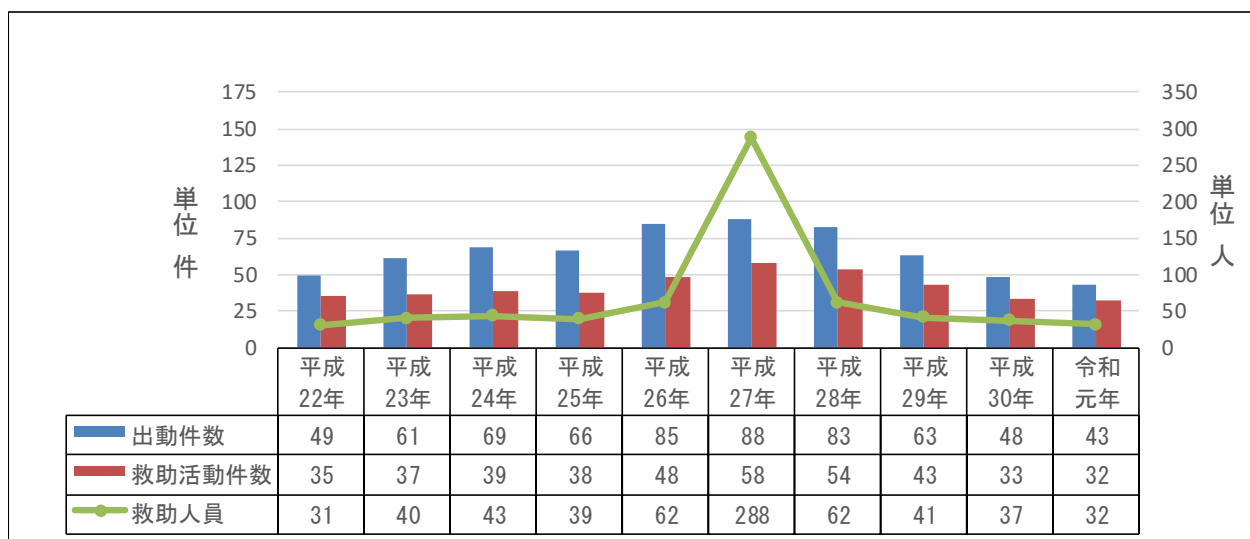


図2 過去10年間の救助出動等の推移



※台風第19号に係る救出者120名は其他災害（自然災害）として計上。当該救助者数には含まず。

2 救助人員の傷病程度

救助事案で発生した傷病者の傷病程度は、死亡7人（前年比1人減）、重症3人（前年比2人減）、中等症9人（前年比4人増）、軽症6人（前年比5人減）、その他7人（前年比1人減）となっています。（表3）

表3 救助人員傷病程度前年比較（単位：人）

程度年	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
令和元年	7	3	9	6	7	32
平成30年	8	5	5	11	8	37
比較	-1	-2	4	-5	-1	-5

3 救助事案発生場所

発生場所については、その他の道路が19件、次いで、その他の屋外が12件となっています。（図3）

図3 発生場所別出動件数

